2017.11.05

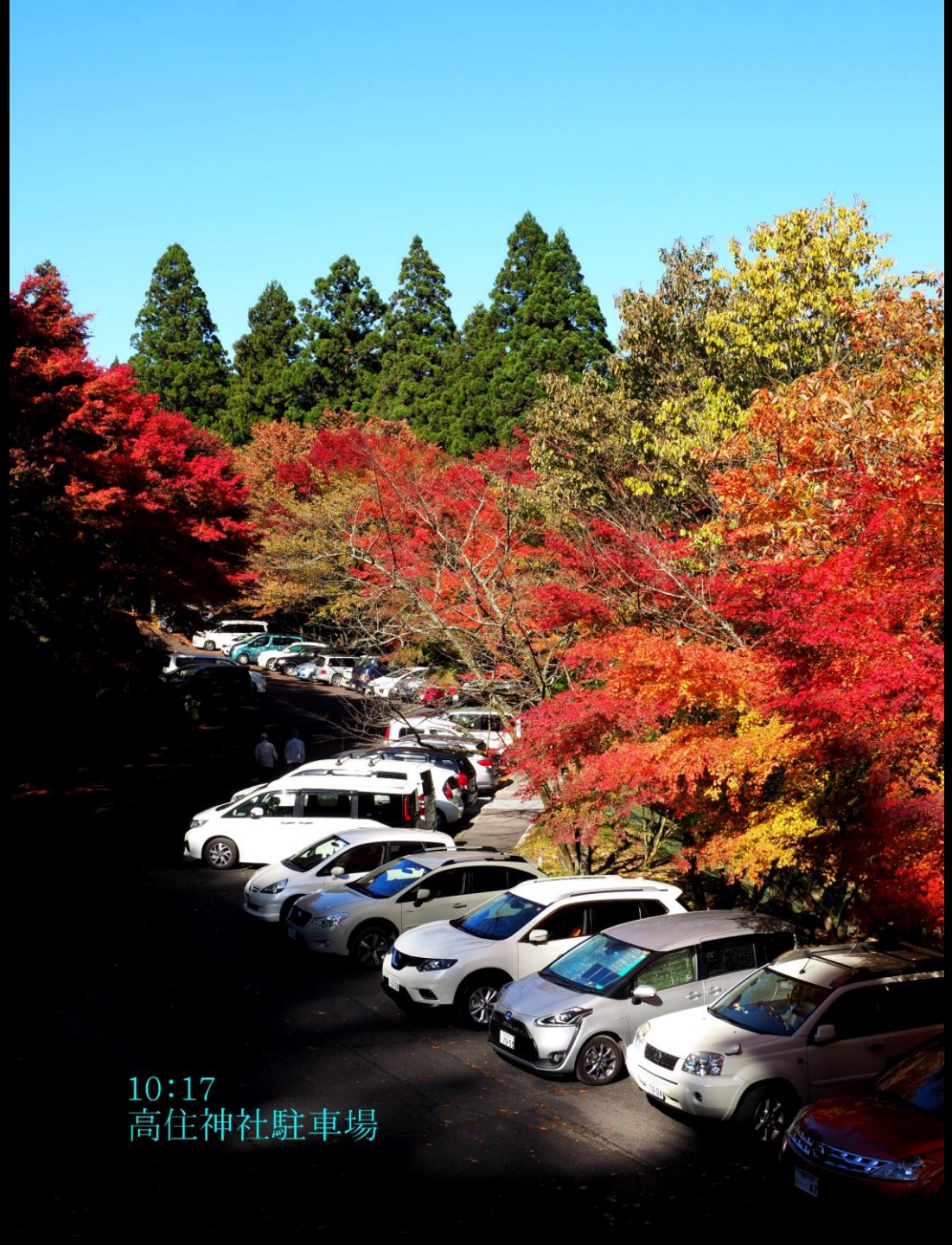
福岡県添田町・英彦山（ひこさん）の紅葉

（高住神社、英彦山神宮奉幣殿、英彦山大権現）

10:10 高住神社駐車場

10:16　高住神社駐車場

10:16　高住神社駐車場

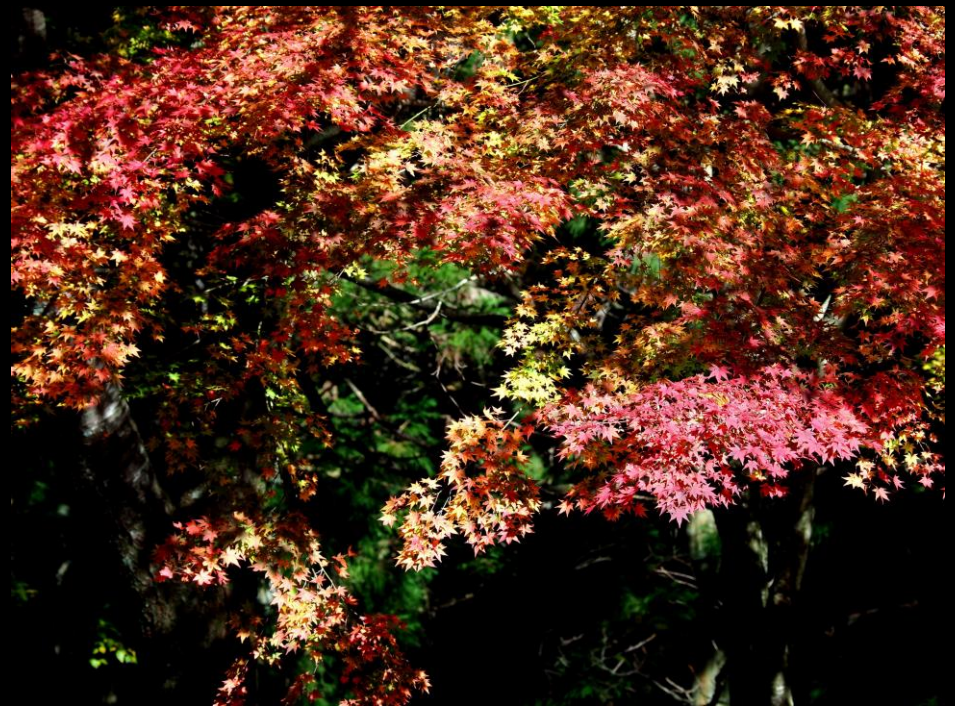

10:17
高住神社駐車場

大天狗の宮
豊前坊 高住神社
祈願
10:17 高住神社

10:21
高住神社

10:24　高住神社

英彦山 地区
耶馬日田英彦山
国 定 公 園
環境省・福岡県
10:30



10:49　鷹巣原駐車場

サザンカ（山茶花）
ツバキ科

P
鷹巣原
駐車場
●駐車場内での事故・盗難等につきましては、一切責任を負いません。
●騒音等、周りの迷惑になる行為はおやめ下さい。
●駐車場内徐行厳守
添田町

奉幣殿・参道
10:51

奉幣殿
0.9km
九州自然歩道
別所駐車場・北坂本
0.3km
0.7km
環境省・福岡県
奉幣殿
参道
10:54

11:03
旧政所坊跡

旧政所坊跡・庭園

十四世座主舜有が後嗣として迎えようとした秋月氏の養子の件は、大友義統の英彦山攻めによって解消となり、法親王の血脈をもって座主とすることになった。そこで舜有の娘と秋月氏の長男種長との間に生まれた孫を後嗣とすることにし、座主が決まらないうちに舜有が亡くなってしまった。

そこで孫娘の昌千代姫を代職とすることになり、一五八七年（天正十五）、昌千代が入峰して政所を居所と定めた。

その後、座主職は一六〇一年（慶長六）まで空席となった。その間小倉城主、毛利勝信が次男の正九郎を昌千代の婿養子として座主にしようと強請し、正九郎自ら門前に押しかけて威嚇した。昌千代は政所を逃れて隠れ、家康に訴え出てようやくこれに勝訴し、その上、守護不入、十方檀越の権利を回復した。

一六〇一年、小倉城に細川忠興が入り、忠興は日野大納言輝資の三男を養子として入峰させ座主職を相続させた。十五世忠有である。

忠有は幕府の覚えもよく、家康、秀忠、家光とも会い、一六二三年（元和九）に有清に座主を譲るまでの二十二年間、英彦山の復興に尽くした。とくに細川家、鍋島家等の篤い寄進を得て、大講堂をはじめとする坊舎を復興した。

池泉庭は、昌千代姫が政所坊に入ってから、忠有の代までの間に作庭されたものと推測される。

池泉庭は二カ所にある。東側の山畔を利用して、自然の谷の滝をそのまま主景とした奥書院の庭と、南側の表書院の庭である。

南庭は比較的小池泉であるが、正面に蓬莱的な量感のある石を立て左方に枯滝を組む。護岸石組も張りがあって力強く、岩島も高くて力が籠っている。

11:08
英彦山神宮奉幣殿（国指定重要文化財）

11:09

11:10
社務所

ミツマタ（三椏）
ジンチョウゲ科　落葉低木

11:16　参道

11:18

11:18

11:20

11:21

11:22

ヤツデ（八つ手）
ウコギ科

ヤツデ（八つ手）
ウコギ科

英彦山神宮
11:24

國指定史跡名勝天然記念物

旧 亀石坊庭園

文明七年(室町時代)西暦一四七五年頃
僧の雪舟禅師の造った庭と伝へられて
居ります。
雪舟は西國を巡り彦山に滞在中に
亀石坊、泉蔵坊、四王寺の三ケ所に
庭を造うれたのが四王寺の庭園は
今はその陰も止めず
亦、泉蔵坊の庭園も荒れ果て僅かに
亀石坊の庭園のみが今日まで保存さ
れて居ります。
通稱雪舟庭園又は雪舟假山と言
われて居ります。

管理者

11:26

11：25
旧亀石坊庭園

11:26

11:37
英彦山神宮奉幣殿
（国指定重要文化財）

11:37
英彦山神宮奉幣殿
（国指定重要文化財）

英彦山野鳥の森案内板

11:37

11：40
旧政所坊跡

11:41　旧政所坊跡

11:41
旧政所坊跡

マムシグサ（蝮草）
サトイモ科

トウネズミモチ（唐鼠黐）
モクセイ科

11:54
鷹巣原駐車場に戻る

11:57
添田町物産振興会

11:58

12:00
シシ汁セット

12:14 ヤマメ

12:15
ヤマメの塩焼き
500円

12:28
英彦山大権現の手前の駐車場

英彦山大権現
参拝者駐車場
登山・長時間の駐車はご遠慮ください
(1時間以上)
駐車場内での事故、盗難等には一切責任をおいません
英彦山大権現

12:35
英彦山大権現参拝者駐車場

信仰と庭園
英彦山大権現
望雲台
北岳
英彦山上宮
中岳
南岳
塞ノ神
御社
遊歩道
もみじ谷
古墳
手水鉢
十六佛舎
庚申
修行大師
子育地蔵
白寿観音
英彦山神宮
展望台
英彦山無線之宮
拝観所
慈母観音
風雪の碑
鐘楼
鬼子母神
英彦山大権現
P2
酒蔵
しゃくなげ荘
記念碑
英彦山大権現
P3
英彦山不動明王
もみじ庵
国道500号線
風花流水の碑
英彦山大権現
P4
冠木門
旧道
二十四仏
鳥居
龍神
鳥居
英彦山大権現
湯の谷別院
滝之坊碑
トイレ
英彦山大権現
P1
現在地
大南林道
鬼杉・玉屋神社方面➡

12:35

12:35

英彦山大権
12:36

英彦山大権
修験無双
12:36

12:36

マムシグサ（蝮草）
サトイモ科

江戸時代
修験者(山伏)の
お墓です
合掌
12:38

12:38 修験者のお墓

12:39

12:40

12:41

12:41

12:42

12:42

12:42

12:43

12:44

12:44

12:45

12:45

12:46　御社

12:47　御社

12:48

12:48　御社

納
奉
浄財
12:50

慈母観音
浄財

12:52

白寿（ハクジュ）観音
長寿とボケ封じ
祈願の観音様です。
観音様の胸に
２回浄水をかけ
ご参拝下さい。
白寿観音
浄 貯
12:52

英彦山大権現の由来

英彦山は、平安時代より神仏習合で山腹には天台宗霊仙寺、山上に彦山大権現を祀った勅願所であり、寺社領は方七里、十方檀那の勅許を朝廷より賜り、霊仙寺は比叡山延暦寺に準じる格式を持ちました。

中世は山中に四十九窟、三千八百の坊があったと称され、大和国の大峯山、出羽国の羽黒山と共に日本三大修験道場の一つでありました。

近世になって天正九年（西暦一五八一年）、彦山と秋月藩との盟友関係を憤った豊後の大友軍は雲霞の如く雪崩をうって彦山に侵入、重要建築物を占領し、火を放ちました。天正十四年まで六年間の戦闘があり、これは織田信長の比叡山焼討に匹敵する法難でありました。

その後、豊臣秀吉の九州征討軍に反抗した為、彦山の寺社領は悉く没収され、重ね重ねの法難にあいましたが、彦山大権現の信仰は益々隆盛で、山伏姿の修験者は九州全域に檀家を持ち、加持祈祷をしてまわり、権現信仰を広めていました。なかでも元和二年（一六一六）小倉藩主、細川忠興氏は山伏たちの集会する講堂として、現在の奉幣殿（重要文化財）を再建しました。肥前佐賀藩主の鍋島氏も信仰厚く、寛永十四年（一六三七）銅の鳥居（重要文化財）を彦山大権現に寄進し、また享保十四年（一七二九）、霊元法皇から霊験灼かな山として、彦山の上に「英」の字を附し「英彦山」とすべしと勅額を賜りました。

明治元年（一八六八）、神仏分離令が発布され神仏習合の英彦山から、英彦山大権現（阿弥陀如来＝天忍穂耳命）の仏は廃止され、その社は英彦山神宮として、神のみを（天忍穂耳命）を祀ることになり、修験者（山伏）の多くは山を降りました。

その後、百拾余年、英彦山大権現の尊称はまさに歴史の彼方に消え去らんとしていました。この由諸ある法灯を英彦山大権現の御告を戴き、今回（昭和五十四年）権現信仰発祥の地である玉屋渓谷の坊跡、滝の坊にお祀りさせていただくことになりました。

12:53

12:54

12:53

12:57　駐車場に戻る

END